

「新聞記事を活用したアクティブラーニングの実践」

～新聞記事で教科書を身近に感じる～

兵庫県立西宮高等学校 校長 高繁 武司

教諭 宮本 隆史

1. はじめに

本校では平成 28 年度から N I E の実践指定校として、新聞を活用した授業実践に取り組んでいる。本年は 2 年目の取り組みとなる。昨年度は課題研究における調査研究で新聞を活用した取り組みを行った。本年は課題研究の取り組みに加え教科「情報」で行われた新聞記事を活用したアクティブラーニングの実践報告を行う。

2. 実践の概要

(1)教科情報での実践

本校では、1 年次に「情報」を 2 単位履修している。普通科は入学時に「社会と情報」または「情報の科学」のどちらかを選択履修する。音楽科は全員「社会と情報」を履修する。「情報」では、近年情報モラルに関する指導に重点を置いている。本校でもほとんどの生徒がスマートフォンを使用し、通話やメール以外に、L I N E やツイッター、インスタグラムなど S N S を利用したコミュニケーションツールを使用している。しかし、ネット社会の影や知的財産権などについての認識は浅く、知識が不足している故にトラブルに見舞われることもあるようである。

近年「情報」の教科書にも情報モラルについての記述が増加し、様々な法律や気をつけなければならないトラブル、情報化社会で豊かになった事案についての記述がある。しかし、生徒たちはそれを身近なこととしてとらえることが出来ないことがある。そこで、新聞記事にある様々なトラブルやコンピューターウイルス、詐欺、同じ高校生が逮捕された例などを授業で紹介した。特に生徒たちは、同じ高校生が軽い気持ちで作り警察に検挙されたランサムウェアや様々な性被害に同年代の生徒が遭遇することに驚いたようであった。



(コンピューター室で新聞記事を生徒用モニターに転送して紹介した)

(2) 課題研究での実践

昨年に引き続き、課題研究でも新聞を活用した取り組みを行った。本校では、普通科において3年次全員が「課題研究」(2単位)を履修する。その中で調査研究を行い、個人研究により各自の進路や興味・関心のある分野について調査研究を行い、論文にまとめ、パワーポイント又はポスターセッションにまとめ発表していく。授業形態としては約20名の生徒を教師1名が指導する。1年間の流れとしては、企画発表、調査研究、中間発表、フィールドワーク、論文作成と発表準備、最後に講座単位での発表後、優秀者については年次全体での発表会を行うという内容である。

3. 新聞の活用方法

(1) 図書室前の廊下に第1面を掲示

昨年に引き続き、NIE事業で届く新聞については司書の先生の協力を得て、毎日第1面を図書室前の廊下に掲示することにした。各紙の第1面を比較することにより、同じニュースであっても新聞社の視点により表現方法が違うことが一目瞭然である。廊下に掲示することにより、図書室が開室していなくても記事を読むことが出来、休み時間に熱心に読んでいる姿も見られた。今年度は、前期が4月から7月、後期が9月から12月の計8カ月と長期にわたり3紙ずつ購読できたことは良いことであったと思う。掲示された1面の記事をヒントに課題研究のテーマを設定することが出来た生徒もいた。



(図書室前の廊下へ各紙の第1面(朝夕刊)を掲載)

(2) 新聞記事の切り抜き

新聞については、図書室で保管し、自由に閲覧できるようにしている。しかし、全員が一度に新聞を読み、内容を整理するのは非常に手間がかかる。そこで、この問題についても昨年に引き続き、図書委員の協力を得て、情報モラルや課題研究に関するテーマに基づいた切り抜きを行い授業時間では、その切り抜きを利用して調査研究を行うという形式で行った。



(図書委員による新聞の切り抜き作業とトレイに分けて整理された新聞記事)

<情報モラルに関する主な発表テーマ>

情報化の影

交流サイトで子供の性被害が最多
カラオケ著作隣接権侵害
ランサムウェア被害急増
スマホ不正アプリに注意
軽率なつぶやきは、消せない（ツイッターに注意）
DOS攻撃で高校生逮捕
ウイルス詐欺について
白い粉 警察官の前で落として逃走 YouTubeに投稿



(興味のある記事を探す)

情報化の光

被災地支援にツイッター
SNSで災害救助
スマホを利用した学習

4. 研究発表

生徒たちにも実際にこれらの新聞記事からそれぞれが興味のあるテーマを設定し、プレゼンテーションにまとめる取り組みを行った。生徒たちに情報モラルについての新聞記事の検索を指示し、その内容を分かりやすくまとめ、法的にどのようなところが問題となっているか、どのように気をつければトラブルを回避することが出来るのか、教科書や副教材、インターネットも参考にして調査研究を行なった。その結果をパワーポイントによるプレゼンテーションにまとめ、発表を行った。教科書に掲載されている事例を新聞記事で見ると実社会での動きをより鮮明に認識できたようである。

課題研究においても昨年度以上に新聞を活用した発表が増加した。アンケート結果や統計など、記事にある様々なデータを活用することで、説得力のある発表が出来たようである。



(課題研究におけるポスターセッションとプレゼンテーションによる発表会)

5. 新聞記者派遣事業

N I E 新聞記者派遣事業として 10 月 18 日（水）午後日本経済新聞社神戸支社の福田芳久支局長をお招きし、「働くということ～新聞記者からみた『働き方改革』」というテーマでご講演いただいた。対象は、1 年生普通科 8 クラス約 320 名。1 人 1 部ずつ当日の朝刊をご用意いただき、実際に当日の朝刊の記事も活用されながら新聞記者の仕事についてお話しいただいた。これまで取材された方々の印象に残った言葉を中心に、働くことの心構えについて、仕事についての姿勢、労働時間の見直しなどの働き方改革についてお話しいただいた。



（記者派遣事業 講演会の様子）

<生徒の感想より>

どのような仕事であってもそれぞれの立場での苦労があると思う。今回のご講演で話された「おもしろく働くための工夫」について、大変興味を持って聞くことができた。「工夫によって、辛いものだと思っていたものを楽しみに変えることができる。」。この言葉が印象に残った。私に置き換えてみると好きじゃない勉強をどう楽しむか、どうおもしろくするかを工夫するだけで価値観が変わると思う。これから社会に出たときに、辛くて悩むこともあると思うけど、広い視野でおもしろくなるように工夫していきたいと思った。

6. 実践のまとめ

今年度は、「課題研究」に加えて「情報」でも新聞を積極的に活用する取り組みを行った。教科書で学ぶ SNS を利用した犯罪、セキュリティーの欠陥、コンピューターウイルスなどの影の部分と、災害救助や被災地支援に情報が活用できるなどの光の部分を具体的に知ることができたのは、大きな成果であったと思う。これまでは図書館や書店で販売されている書籍、インターネット検索が主であったが、新聞を活用することにより、書籍より新しい内容に触れることができ、インターネットより信憑性のある調査研究を行うことができたと思う。生徒たちの感想では、普段見ることがなかった様々な紙面に触れることが出来て新たな発見があり、大変興味深かったということである。この事業は今年度で終了するが、引き続き新聞を活用した授業を継続していきたいと思う。